

# 教育研究所年報

第 27 号

2018

文教大学教育研究所

# 教育研究所年報 第27号

## 目 次

### 2017年度 事業報告

事業報告	2
第24回「世界の教科書展 特集ラオスの教科書」	3
世界の教科書展レクチャー「ラオスの教育とくらし」	4
「世界の教科書 巡回展」	6
『教育研究所紀要』第26号	7
定例研究会	8
諸外国の教科書収集	10
公益財団法人モラロジー研究所からの受贈教科書	12

### 2018年度 事業計画

事業計画	13
------	----

## 2017年度事業報告

### <研究部> 研究部主任 山川 智子

#### 1. 「世界の教科書展」の実施 (⇒詳細 pp. 3-6)

例年通り、第24回「世界の教科書展 ラオスの教科書」を、越谷キャンパス学園祭(藍蓼祭)の期間中(11月3日~5日)に開催した。教科書、解説パネルの展示を行い、本学卒業生である中川真規子氏によるレクチャー(「ラオスの教育と暮らし」)を開催した。昨年に続き、iPadにおさめた事前収録インタビューで来場者に全容を把握していただけるようにした。

さらに、昨年からの試みの1つとして、桶川での巡回展も開催した(12月2日~3日、「OKEGAWA hon+」にて)。地域の方たちに教育研究所の活動を紹介する機会となった。

#### 2. 『教育研究所年報』第26号の発刊

『教育研究所年報』第26号を5月に刊行した。2016年度事業報告として、第17回「教員のためのエクセル入門講習会」実施報告、第23回「世界の教科書展 特集ドイツの教科書」、「世界の教科書展レクチャー『ドイツの教育と今』」、『教育研究紀要』第25号、定例研究会、2017年度事業計画を計14頁に掲載した。

#### 3. 客員研究員の受け入れ

国内の学術機関(他大学を含む)から計11名の客員研究員を受け入れた。

#### 4. 「定例研究会」の実施 (⇒詳細 pp. 8-9)

2017年度は計3回の「定例研究会」を実施した(通算第93回~95回)。開催時期は2017年11月4日(土)、5日(日)、および2018年3月3日(土)である。

### <研修部> 研修部主任 加藤 純一

#### 1. 『教育研究所紀要』第26号の発行 (⇒詳細 p. 7)

『教育研究所紀要』第26号、特集のテーマは「次期学習指導要領における諸課題」。テーマに関わる依頼論文3編、投稿論文1編、自由研究への研究論文7編、実践研究3編、研究ノート3編という内容であった。

#### 2. 『教育研究所ニュース』の発刊

第46号は巻頭言を「教育研究所に吹く新しい風」とし、世界の教科書展と桶川市における世界の教科書の巡回展、定例研究会開催のお知らせ、文教大学の授業の執筆者紹介を載せた。第47号は巻頭言を「世界のコレクション 新規受贈教科書18カ国、7249冊」とし、2017年度世界の教科書展(特集:ラオスの教科書)、定例研究会のお知らせ、文教大学の授業の執筆者紹介を載せた。

#### 3. 『文教大学の授業』の発行

第60号「『当たり前』を捉え直してみる、ということ ~『教育環境学演習』での主体的な学びの試み~」(人間科学部 村上純一先生)、第61号「授業への社会文化的アプローチとディープ・アクティブ・ラーニング」(教育学部 小嶋英夫先生)、第62号「ゼミにおける体験的学びの機会の提供と学生の成長 ~学外プロジェクトの活用に関する試行~」(国際学部 山田修嗣先生)、第63号「教員も想像できないゴールを目指して! ~ゼミ活動の紹介~」(健康栄養学部 笠岡誠一先生)。

#### 4. 教育研究所ホームページの運営・更新。

## 第24回「世界の教科書展 特集ラオスの教科書」

研究部主任 山 川 智 子

### 実施概況

ラオスは、ベトナム、タイ、カンボジア、中国、ミャンマーに囲まれた東南アジア唯一の内陸国である。森林も多く、タイとの国境沿いには東南アジア最長のメコン河が流れ、ラオスの人々は昔から豊かな自然に囲まれて暮らしている。近年は、メコン河流域の多国間開発により、環境が大きく変貌しつつある。

ラオスは約49の民族からなる多民族国家であり、多数派民族ラオ族の母語が公用語となり、学校でも使われている。そのため、ラオ語を母語としない少数民族の子どもにとって学習に困難がともなう。また、地理的要因や家庭事情などで、初等教育段階でも退学せざるを得ない子どもも少なくない。

こうした様々な課題はあるものの、子どもたちの就学率も上昇している。また、自然とともに豊かに暮らすラオスの人々の中に私たちが忘れかけた魅力がある。ラオスは現在、日本企業の新たな進出先としても注目されている。今回の教科書展では、教科書を通じて、日本でそれほど知られていないラオスという国の状況を来場した方たちに感じ取っていただいた。

今回収集したラオスの教科書は145冊になる（初等学校51冊、中等学校94冊）。内容は次の通りである。【初等学校】国語（10冊）、算数（10冊）、生活科（10冊）、美術（5冊）、体育・健康（5冊）、英語（6冊）、その他（5冊）。【中等学校】国語（14冊）、歴史（7冊）、地理（7冊）、公民（4冊）、数学（8冊）、生物（3冊）、物理（3冊）、化学（3冊）、家政・技術（4冊）、外国語（15冊）、日本語（3冊）、その他（23冊）。来場者は、3日間で359名にのぼった。また、本学学生・卒業生をはじめとして、一般の方たちからも多くの声が寄せられた。「教科書を通して、ラオスという国を身近に感じる事ができた（一般来場者）」「とても興味深かった。以前より視野が広がったと思う（学生）」など。【アンケート抜粋は5頁に掲載】

今回の教科書収集、展示パネルの解説、および教科書翻訳、特別レクチャーにあたり、「地球対話ラボ」理事の中川真規子氏にご協力いただいた。この場を借りて厚く御礼申し上げます。今回の教科書展の内容は、教育研究所HPに掲載されているので、こちらもぜひご覧いただきたい。



## 第24回「世界の教科書展」 レクチャー「ラオスの教育と暮らし」実施報告

研究部主任 山 川 智 子

### 実施概況

今年度で24回目を迎える「世界の教科書展」では、ラオスの教科書が紹介された。その国の教育を映し出すのが教科書であるが、ラオスでは子どもの数に対して教科書が足りず、一冊の教科書を教室で回し読みしながら学ばなければならない子どもたちも少なくない。こうしたラオスの事情を学び、自分に何ができるか考える機会を持つことは重要である。今回の教科書展がそのきっかけになったのではないかと考える。

中川氏によるレクチャー「ラオスの教育と暮らし」では、日本ではあまり知られていないラオスという国について、様々な写真が提示されながら以下のことが紹介された。

ラオスの教育は外国からの援助に支えられている。多民族国家でありながら、教育言語は公用語のラオ語であるので、ラオ語が母語でない少数民族の子どもにとって困難が多い。その他、地理的な要因、家庭事情等が要因となって、初等教育段階でも2割以上の子どもが退学せざるを得ない状況にある。こうした子どもに対して、教科書や学ぶ場の提供、母語・教授言語のサポート等が求められている。また、教育環境の整備の他、教育への大人の関心や識字率を向上させること、教員養成も重要な課題となっている。こうした様々な課題はあるものの、独自のペースで控えめに暮らすラオスの人々の中にこそ、私たちが忘れかけた魅力があることを中川氏から学んだ。

レクチャーの中で実際に中川氏から提示された、ラオスの女性がつくる織物の美しさは来場した多くの方たちの記憶に残るものとなった。また、ラオ語の文字、その書き方についても来場者に配布資料が渡され、分かりやすく紹介された。レクチャーからは、中川氏のあたたかい人柄もかいまみられ、会場全体がなごやかな雰囲気にも包まれた。

教科書展開催中のレクチャーの他、昨年度からの試みの一環として、インタビューの事前録画の入ったiPadを会場に設置し、来場者が気軽に閲覧できるようにした。事前収録にあたって中川氏からラオスの様々な話題を紹介していただき、教科書展に向けてスタッフ一同、気持ちを高めることができた。教科書展に足を運んでくださった方たちも、気軽にiPadを操作して教科書展の内容を把握されており、ラオスの「いま」を十分に体感していただけたと実感している。



## 第24回 世界の教科書展 会場アンケート(抜粋)

### 本学卒業生

- ・学祭のなかに、文化的な展示発表があることがよかったです。卒業から30年以上になりますが文教生のまじめさが感じ取れてうれしく思いました。
- ・なかなか外国の教育事情について知る機会がなく、やはり日本は恵まれている教育環境なのだなと思いました。それについて知ること、興味を広げていくことで、自分も少しでも今の小学校の学習でも、外国に同じように生きる子供たちに興味を持たせられないかなと思いました。私も実際に見てみたいと思いました。ありがとうございました。
- ・展示では、「2. ラオスの教育」が興味深かったです。義務教育は5年しかないこと、入学しても、卒業まで残れずにやめてしまう子どもが多いこと、お金がなく教員も働けず教科書も1人1冊ないことなど、日本では当たり前となっていることが、ラオスや他の国ではそうでないことがわかりました。日本で教育にあたれることに感謝したいです。教え方も教師主導のつまみ型な印象を受けました。ラオスの現地取材の映像も、様子が伝わり興味深かったです。ここまでの準備、大変お疲れさまでした！！ありがとうございました。

### 本学学生・院生

- ・ラオスを主として、諸外国の教科書を比べるいい機会となった。日本と比べて教育水準が高い国、低い国、実用的な内容が多い国など、諸外国の実情にあった内容が学ばれていることがわかった。外国の教育の試みが比べやすく、面白いので、来年以降も来たいと思います。
- ・ラオスについてほとんど無知でしたが、教科書や教育行政・制度などとても興味深くおもしろかったです。ラオスの教科書と他国のものを比較すると経済的な問題を感じました。教育を受けやすい環境、その必要性を(日本も同様ですが)国民全体で考える必要があると思います。
- ・去年のドイツ展から気になっていたのですが、今年初めて入りました。内容が充実しているほか、かなり前からやっていたことに驚きました。非常に興味深く見させていただきました。

### 高校生

- ・ラオスのことはあまり知らなかったが、今回の展示でラオスのことがわかった。また、解説も、日本との違いを示しながら説明していたので、とても分かりやすかったです。

- ・普段は見られない他国の教科書を見ることができてよかったです。日本の教科書とは全て違う国や少し似ている国など、さまざまで、とてもおもしろく、興味深かったです。

- ・普段なかなか見ることのできない世界の教科書に触れることができてとてもすてきな体験でした。イギリスの国語の教科書のカラー一度の高さにおどろきました。ラオスについての解説もとても勉強になりました。

### 本学教職員

- ・ICTを使った展示もあってわかりやすく、教科書だけではなくラオスの日常の映像とともにラオスを身近に感じました。様々な国の教科書も手に取ることが出来て楽しいです。ご準備や資料の保存には御苦労がとおありと思いますが、これからも続けていっていただきたいすばらしいプロジェクトです。どうもありがとうございました。

### 本学学生の家族

- ・展示は見やすく、よく調べていると思いました。とてもためになりました。
- ・もともとラオスについての知識がなく、教科書以外についても知らないことをたくさん知ることができました。とても有意義なイベントだと思います。ありがとうございました

### その他

- ・教科書を通して、ラオスという国を身近に感じることができました。1994年から続くこの教科書展をぜひ続けてください。また、桶川のような各地でこの素晴らしい取り組みを広めていっていただきたいと思います。
- ・ラオスという国の事情について一片とはいえ、知ることができた。とても貴重な体験をさせていただいて良かった。
- ・ラオスの教育の現状を知り、改めて日本の教育制度の良さを実感した。ラオスでもどこに住んでいる人でも、平等に教育が受けられるように、また、教員の方たちの地位がもっと良くなるように、今後の動向に注目しつつ、自分にもなにかできることがあれば・・・と、考えさせられる良い機会となりました。
- ・他国の教科書を見ることがないため、とても面白かったです。次回も見に行きたいです。

## 「世界の教科書 巡回展」

日時：2017年12月2日（土）、3日（日）、10時から21時

会場：「OKEGAWA hon+」（桶川駅西口駅前桶川マイン3階）

共催：丸善雄松堂株式会社 後援：埼玉県教育委員会

研究部主任 山川 智子

文教大学教育研究所の特色ある取り組みの一つが、越谷キャンパス学園祭（藍蓼祭）で開催する「世界の教科書展」である。この教科書展は1994年度からはじまり、2017年で24回目を迎えた。この間、世界各地の教科書を収集し、保管してきた。この地道な活動が各方面にも知られるようになり、2017年度には、モラロジー研究所から教科書の寄贈を受けた。現時点で保有する教科書は、およそ30か国・地域の教科書が約1万冊に達する。教育研究所として、引き続き収集、保管活動を行っていく予定である。

教育研究所として、教科書コレクションの全貌を一般の方たちに広く知っていただくべく、2016年度に「OKEGAWA hon + イベントスペース」にて初の学外巡回展を8日間にわたり開催することができた。2017年度は、同じく桶川にて、学園祭で展示したラオスの教科書に焦点をあて2日間の展示を行った。幸いにも埼玉県教育委員会の後援を受け、丸善雄松堂株式会社教育・環境ソリューション事業部との共催という形で「ラオスの教科書展－文教大学教育研究所世界の教科書コレクション」というテーマで臨んだ。

2日目（12月3日）の公開講座「教科書の国際比較から学べること－ラオスの教育を探ってみよう！」では、卒業生の中川真規子氏が現地で撮影した写真を活用し、研究部主任の山川がラオスの教育制度や初等教育の現状、教科書に関して話をした。「メコンの宝石」とも呼ばれ、日本企業の新たな進出先としても注目されるラオスの現状について話した後、テーマを「ラオスの教育」に移し、教育制度、初等教育、教科書の特徴、そして「ノンフォーマル教育」の4項目を挙げ、話を進めた。また、言語運用面から少数民族へのサポートが必要であること、教員の中に占める少数民族の出身者の割合を高めることが目標となっていることなど、いくつか課題を提示した。その他、地理的な要因や家庭事情等で初等教育段階でも2割以上の子どもが退学せざるを得ない状況にあること、こうした子どもに対して、教科書や学ぶ場の提供、母語・教授言語のサポート等が求められていることについても触れた。さらに、教育環境の整備や、教育への大人の関心や識字率を向上させることも重要であることも指摘した。

世界の教科書を収集し、保管する研究機関は国内でも珍しく、近年はメディア関係者や他の研究機関からの問い合わせも増えている。今後、貴重な資料をどのように活用し、どのような形で公開していくかに関しては試行錯誤の連続であるが、「教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献を果たす」という教育研究所の理念を念頭において精進を重ねたい。



## 『教育研究所紀要』第26号

2017年度は『教育研究所紀要』第26号(187頁)を発行、以下の論文を収録した。

## I. 特集：次期学習指導要領における諸課題

特集テーマの設定について……………(教育研究所所長) 平 正人

## 依頼論文

「何を、どのように学ばせ、何ができるようにするか」

校長の真の経営力が問われる時代—カリキュラム・マネジメントを充実させる側面—

……………(越谷市立平方中学校) 大西 久雄

小学校英語教育における歌あそびの可能性

……………(立教大学・立教小学校) 村松 麻里

新学習指導要領におけるアクティブ・ラーニングとICT活用

～小学校におけるプログラミング教育(Scratch)の実施に向けて～

……………(教育学部) 今田 晃一・(文教大学生生活科学研究客員研究員) 鈴木 賢男

## 投稿論文

「主体的・対話的で深い学び」を目指す道德教育の研究

～「特別の教科 道德」の評価を意識した実践～

……………(客員研究員) 清水 香保里

## II. 自由研究

## 研究論文

小学校教員が具えるべき数学的知識に関する調査研究

—カリキュラム・デザインを視点として—……………(教育学部) 石井 勉

刀法としての「きる」と現代剣道の「うつ」との相関について

—剣道の実用性からのアプローチ—……………(教育学部) 加藤 純一

教育実習と学校ボランティアとコミュニケーション・スキルの関連

……………(教育学部) 池田 進一・(教育学部) 手嶋 将博

数学的活動に対する教師の意識調査……………(教育学部) 永田 潤一郎

小学校社会科における価値教育ストラテジーについて(その3)

……………(教育学部) 吉田 正生

社会科地域学習における文化財の活用(前編)

～博・学・民協働による越谷市保存民家の活用実践から～

……………(教育学部) 六本木 健志・(元調布市武者小路実篤記念館専門員)・村田 三恵

ICTを活用した「特別の教科 道德」の実践～「考え、議論する道德」への転換に向けて～

……………(客員研究員) 清水 祥平・(教育学部) 今田 晃一

## 実践研究

オリンピック・パラリンピック教育の展望

—オリンピック・パラリンピックに関する教育プログラム講習の実践から—

……………(人間科学部) 二宮 雅也

英語絵本を活用した小学校外国語活動におけるデジタル教材の可能性

～Scratchプログラミングを活用した復習用教材の作成を通して～

……………(客員研究員) 浅川 有紗・(教育学部) 今田 晃一

体育における主体的・対話的で深い学びの実践

—ネット型ゲームのプレルボールを通して—

……………(客員研究員) 市河 大・(教育学部) 今田 晃一

## 研究ノート

幼児・児童についての教育相談事例の近年の傾向……………(教育学部) 井上 清子

日本人の「学び」に関する一考察……………(客員研究員) 青木 大輔

社会科教育における地域博物館の活用・連携の再検討

—東京都内の小学校対応の事例から—……………(客員研究員) 加藤 紫識



## 定例研究会

教育研究所所長 平 正 人

本年度の定例研究会は、昨年と同様の形式で、藍蓼祭期間（2017年11月4日午後および5日午前）と年度総会（2018年3月3日午後）において開催した。藍蓼祭期間中に開催した定例研究会では、定例研究会をひろく一般の方々に開放することを目的として、「次期学習指導要領における諸課題」という共通テーマを設定した。『年報』25号および26号には、「そもそも定例研究会は、学内外を問わず誰でも参加、聴講、質疑応答ができる場であり、学内の教職員、学部生、大学院生をはじめ、本学を卒業・終了したOB・OGや現役の教員の方々にも自由に参加いただき、活潑な質疑応答や議論がなされることが理想である」とある。定例研究会は今年度で計95回を重ねるが、「教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献を果たす」という教育研究所の目的のもと、教育現場はもとより、教育をめぐるさまざまな状況の変化に応じて、常に新しい情報や知見を発信していきたいと考えている。



定例研究会における発表の様子

### 2017年度定例研究会発表要旨

<第93回 2017/11/4（土）>

【フリーテーマ】

I 「地域の教育力向上における実証的研究（1）～「青少年育成推進協議会」の活動に着目して」栗原 保

地域の協力向上が叫ばれる中、地域の「青少年育成推進協議会」に着目した。1950年代に入り青少年の健全育成や非行防止目的に、全国的に組織化され、町内会や民生委員、保護司会、女性団体、PTAなどを中心に、現在も継続した活動となっている。青少年の交流や体験活動のイベントが中心で成果を上げている一方で、支援する人材不足も大きな悩みとなっている。組織内に「指導員協議会」といったリーダー組織が活性化につながる事例もあり、今後の連携協力のヒントになる。

II 「社会教育主事の専門性に関する研究－実践と専門性の言語化に向けて－」阪本 陽子

社会教育主事の専門的職務の基盤を形成しているのは「学習支援」であると考えが、本来は社会教育主事が持つべき、その学習支援者としての役割が見えにくく、また、養成しにくい能力でもある。その理由の一つには、その役割の実態はまったく言語化されず、理解されてこなかったことが考えられる。社会教育主事の専門性のうち、「学習支援者としての役割」に焦点を当て、社会教育実践における専門職の役割の言語化を考えることで、その専門性を明らかにできるような取り組みを検討した。

【共通テーマ：次期学習指導要領における諸課題】

III 「主体的・対話的で深い学びを目指す道德教育の研究～「特別の教科 道德」の評価を意識した実践～」清水 香保里

本研究は、平成27、28年度川越市委嘱研究（道德教育）を行い、見えてきた課題を改善するために行った実践研究である。課題になった、「①指導方法や評価について」、「②実生活と結びつけながら道德性を高めること」を踏まえ、児童が自分と向き合って自己の生き方を考えることができるような、主体的・対話的で深い学びを目指す道德科の授業実践の提案である。「考え、議論する道德」を実践するためには、一層、児童の考えを引き出す教師の発問と、記録の工夫が必要である。

#### IV「夜間中学政策の現状と課題 ～義務教育の多様化～」矢作 由美子

義務教育の多様化は、人間が生活していく上で、幸福で、人間が人間として尊厳をもって生きていくために必要な教育で、人間の生活に最低限度、必要とされる基礎的な教育のことだと考える。諸外国について、視野を広げつつ、我が国における「基礎教育と普通教育」について基礎教育の理念から検討し、特に、教育課程からみた「準ずる教育」（中学校学習指導要領に準ずる教科指導）について実態調査を踏まえて報告する。

#### <第94回 2017/11/5（日）>【共通テーマ：次期学習指導要領における諸課題】

##### I「小学校英語におけるICT活用」浅川 有紗

平成32年度より、新学習指導要領が全面実施となり、小学校における外国語教育は新しい時代を迎えようとしている。高学年には外国語が教科として導入されるが、学習効果の期待できる教材の1つに英語絵本を提案する。また、外国語活動におけるICT活用の利点から、プログラミング教材「Scratch」を用いた復習教材を作成する。外国語活動とプログラミング教育の補完関係に着目することで、時数確保・カリキュラムマネジメントにもつながる有益な教育活動となり得る。

##### II「幼稚園教育要領改訂の変遷と今後の課題」綾 牧子

幼稚園教育要領の改訂の変遷を踏まえた上で、平成30年度から全面実施される新要領等の改訂のポイントについてまとめた。特に、小学校教育の学習に円滑に移行するための「資質・能力の三つの柱」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点について、中央教育審議会答申（2016年12月）や新小学校学習指導要領における記述、新聞記事などをもとに示した。さらに、具体的な保育場面から、幼児期における遊びを通じた総合的な学びの捉え方について検討した。

##### III「体育好きの児童の育成～プレルボールの実践を通して～」市河 大

2020年完全実施予定の学習指導要領における主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）が注目され、これまでに蓄積された学校教育実践から指導方法や評価方法を改善していくが望まれている。そこで本研究では、体育における「主体的・対話的な学び」を先取りした体育授業を行った。結果、現行学習指導要領で求められているところの「言語活動の充実」を図ることで「主体的・対話的で深い学び」が達成できるのではないかとの結論に至った。

#### IV「ICTを活用した「特別の教科道徳」の実践 ～「考え、議論する道徳」への転換に向けて～」清水 祥平

道徳の教科化は、年間35単位時間が確実に確保されるという量的確保と、子供たちが道徳的価値を理解し、これまで以上に深く考えてその自覚を深めるといった質的転換を求めるものである。そこで本研究では、ICTを活用した「特別の教科道徳」の実践として、NHK for Schoolの映像教材『ココロ部』、全14話を用いた授業実践を行い、授業評価を行った。結果、児童にとって主体的・対話的な学びの場となり、ICTを活用した考え、議論する道徳の授業づくりへの留意点を見出すことができた。

#### <第95回 2018/3/3（土）>【フリーテーマ】

##### I「日本人の「学ぶ」に関する一考察」青木 大輔

日本人にとって「学ぶ」こととは何だろうか、という問いである。これまでの研究や諸外国の生涯学習施策をみると、日本人の学びは趣味的なものや親睦のための学習への傾向が強く、諸外国では職業や生活に結びつく学習支援施策が比較的充実している。学習の功利性（市川）という面で見ると、日本人のそれは比較的低いのではないだろうか。しかし、日本人が築いてきた文化を持続させ「盛り上げて」いくためには、日本人はさらに広い視野で積極的に「学ぶ」必要があるのではないか。

##### II「社会科教育における地域博物館の活用・連携の再検討」加藤 紫識

本発表では、地域博物館における小学校の利用機会を分析した。発表者が勤務する区立博物館は小学校3年生の社会科の単元「昔の暮らし」を学ぶ時期に学校単位の利用が集中する。1学年100人近い児童がいる学校もあり、施設面・学習面でもこの時期の見学対応に課題があった。これを改善するために集中する時期に合わせて昔の道具展を開催した。これにより、博物館を利用する学校が増えいくつかの課題が改善したが、資料利用の機会が増えたことにはならず、さらなる検討が必要である。

## 諸外国の教科書収集

教育研究所では、設立当初より海外の教科書を収集してきた。収集した教科書は「世界の教科書展」に展示し、近年はマスコミからの問い合わせや取材依頼も多い。2017年度は、アメリカ、イギリス、フランス、フィンランド、中国の教科書を合計115冊収集した。これまでに教育研究所が収集した諸外国の教科書は、次のとおりである。

### 1. 初等学校（計23カ国：2014年度収集したトルコ教科書は次ページに記載）（2018年3月31日現在）

国	教科	国語	社会	算数	科学	生活科	総合科	音楽	美術	体育・健康	実科	英語	日本語	道徳・宗教	情報	国際理解	その他	計（冊）
アメリカ			1	29														30
イギリス		20	12	8	18										4			62
インド		141		5			10			7				9	15			187
インドネシア		6	12	6	6				6	2		6		6			6	56
オーストラリア		60	7	23	18				6	10	6		3	3		1	7	144
オランダ		2	3	6	6							1					2	20
韓国		26	14	23	16	10		4	4	4	2	6		10			8	127
シンガポール				19	13					6		5						43
スイス		2		1														3
スペイン		6	4	6	6		3					6		7	2		1	41
スリランカ		7		5								6		6				24
タイ		12	6	7	6	1	1		2	6	6	6					6	59
中国		10	11	16	15			6	5			28		6			1	98
ドイツ		8		11		20	4	2	3			17		3				68
トルコ			2	5	2													9
バングラディシュ		5		3								1					3	12
フィンランド		28	7	26	18							13						92
ブラジル		10	9	9	9				5			5		11			6	64
フランス			10	7								20						37
ポーランド		1		1	1													3
マレーシア		14	3	17	11	1				6		10		16			8	86
ラオス		10		10		10			5	5		6					5	51
ロシア		51	1	27	3	26		4	9	4	11	36			7		3	182
計		419	102	270	148	68	18	16	45	50	25	172	3	77	28	1	56	1498

なお、冊数には教科書の他に教師用指導書、ワークブック等含んでいます。

## 2. 中等学校(前期) (計 14 カ国)

(2018年3月31日現在)

国	教科	国語	社会	歴史	地理	公民	数学	科学	生物	化学	物理	音楽・美術	体育	家政・技術	外国語	道徳・宗教	情報	その他	計(冊)
アメリカ			6																6
イギリス		7	8	3	3	2	4	6	1	1	1	2			2		2		42
インドネシア		3	3			3	3	3							3	3		3	24
韓国		5	2	2			3	3				4	2	3	2	2		3	31
シンガポール				3	7		7		1	4	2			2	4				30
スペイン		5		2	3	1	5	2	1		2	1	4	3		4			33
タイ		8	4				10	5				2	2	6				3	40
中国		3		8	3		6		4	2	4	6			6				42
ドイツ		3		31	9		5	2	2		2	5		1			2	10	72
ネパール							1	1							1				3
フィンランド		3	4	3	3		6		5	1	1	4		1	6	1		2	40
フランス		2		1			1								18				22
ラオス		8		4	4	4	5							4	12			8	49
ロシア		15	6	9	4		8		4	4	3	10	3	2	5	6	2	6	87
計		62	33	66	36	10	64	22	18	12	15	34	11	22	59	16	6	35	521

## 3. 中等学校(後期) (計 5 カ国)

(2018年3月31日現在)

国	教科	国語	歴史	地理	数学	幾何	代数	生物	物理	化学	音楽	美術	英語	日本語	その他	計(冊)
イギリス		1														1
中国		6	8	5		2	2	2	3	3	1	1	3	2	1	39
ドイツ					3			1		2						6
フランス		1	1	1	1								2			6
ラオス		6	3	3	3			3	3	3			3	3	15	45
計		14	12	9	7	2	2	6	6	8	1	1	8	5	16	97

## 4. トルコ

(2014年度収集)

国語	22
算数	13
社会	17
理科	14
英語	18
宗教	19
その他	22
計	125

## 5. 教科書入手方法

アメリカ	メリーランド州教育委員会/三省堂	ドイツ	文学部野原章雄先生/伸興通商
イギリス	文学部春海聖子先生他		文学部山川智子先生/エルベ書店
インド	極東書店	トルコ	トルコ文部省
インドネシア	スラバヤ日本人学校教員		早稲田大学澤井先生、長谷部先生
オーストラリア	日豪交流基金坪井純子氏/伸興通商	バングラディッシュ	人間科学部藤田雅子先生
オランダ	人間科学部太田和敬先生	フィンランド	通産省客員研究員キビヤホ氏
韓国	文教大学大学院白華福氏		京都大学大学院生隼瀬悠里氏
シンガポール	三省堂/タイムズメディア	フランス	教育学部星野常夫先生/伸興通商
	伊藤鉄郎氏	ブラジル	イタリア書房
スペイン	伸興通商	ポーランド	伊藤鉄郎氏
スリランカ	スマナラーマヤ寺住職アンギラサ氏	マレーシア	マレーシア工科大クマラグル先生
タイ	アジア文庫		通産省客員研究員トレイタック氏
中国	アカデミー北大阪	ロシア	ナウカ・ジャパン
ネパール	伊藤鉄郎氏	ラオス	特定非営利活動法人ラオスのこども

## 公益財団法人モラロジー研究所からの受贈教科書

教育研究所所長 平 正 人

この度、公益財団法人モラロジー研究所から、海外 18 ヶ国の教科書およそ 7000 冊を受贈した。これによって教育研究所が所蔵する世界の教科書コレクションは計 31 ヶ国の教科書、およそ 1 万冊に達する。以下においては、新たに加えられた教科書の受贈経緯と概要を紹介する。

はじめに、受贈経緯である。モラロジー研究所は 115 ヶ国の教科書約 1 万 5000 冊を保有していたが、施設の建て替えにともない、教科書の処分を検討するに至った。同研究所はそれらの受け入れを教科書図書館に打診したが、同図書館は保管スペースの確保の問題からすべての教科書の受け入れは困難であるとして、それらの一部を教育研究所に寄贈するようにモラロジー研究所に提案した。教育研究所は、受け入れの申し出があった 18 ヶ国の教科書およそ 7000 冊には、既存のコレクションに含まれていない国の教科書が多数含まれていることから、この申し出を受諾するに至った。

次に、受贈した教科書の国名と冊数は以下の通りである。

### 1. 教育研究所のコレクションに含まれていない国の教科書

国名	受贈冊数	国名	受贈冊数
香港	236 冊	スウェーデン	81 冊
台湾	168 冊	旧東ドイツ	48 冊
イタリア	497 冊	旧西ドイツ	256 冊
カナダ	266 冊	旧ソ連	280 冊

### 2. 教育研究所が所蔵しているものの、その数が少ない国の教科書

国名	受贈冊数	所蔵冊数	国名	受贈冊数	所蔵冊数
アメリカ	1489 冊	30 冊	スペイン	150 冊	74 冊
中国	832 冊	155 冊	フィンランド	97 冊	127 冊
韓国	549 冊	158 冊	ロシア	39 冊	269 冊
ドイツ	760 冊	146 冊	フランス	616 冊	27 冊
イギリス	735 冊	63 冊	スイス	150 冊	3 冊

最後に、(2) に挙げた教科書は教育研究所の所蔵する教科書と重複が予想されるため、今後はそれらの照合作業を進めると同時に、「教科・タイトル・著者・出版社・出版地・出版年」などの書誌情報を記入した目録を作成し、閲覧環境を整備していく予定である。

## 2018年度事業計画

### ＜研究部＞ 研究部主任 山川 智子

#### 1. 「世界の教科書展」の実施

各国における教育の現状を理解するための資料として収集した教科書、および解説パネルを展示し、海外の教育事情を紹介する。例年通り、「世界の教科書展」を越谷キャンパス学園祭（藍蓼祭）で開催する。2018年度は、これまで収集した国の教科書のうち、英語教科書に焦点をあて、展示する。さらに、2016年度からはじまった学外展示会として、「OKEGAWA hon +」（桶川）でも開催する予定である。

#### 2. 『教育研究所年報』第27号の発刊

2018年5月に発刊予定である。世界の教科書展の報告、定例研究会報告など、前年度の活動報告および今年度活動計画を中心に、14頁にまとめて掲載する予定である。

#### 3. 客員研究員の受け入れ

国内の学術機関（他大学を含む）から、8名の申請者があった。5月の会合後に受入承諾を行う予定である。

#### 4. 「定例研究会」の実施

2018年度は計3回（2018年11月3日、4日、2019年3月2日、通算第96回～98回）の「定例研究会」を実施する予定である。

### ＜研修部＞ 研修部主任 加藤 純一

#### 1. 『教育研究所紀要』第27号の発刊

2018年12月に第26号を発行予定。特集のテーマは「教科用図書・教材の授業における活用（仮題）」を予定している。

#### 2. 第18回「教員のためのエクセル入門講習会」の実施

2017年度に開催できなかった「教員のためのエクセル入門講習会」を2018年8月に実施予定。講師ならびに内容については次年度明けに決定予定。

#### 3. 『教育研究所ニュース』48、49号の発行

本研究所の事業の進捗状況や活動の報告を中心に、学内外にそれを知らしめていく広報誌としての役割を担う同ニュースは、2018年6月と10月に発刊予定。

#### 4. 『文教大学の授業』64、65、66、67号の発刊

文教大学の教員の授業を学内外に紹介していく。

#### 5. 教育研究所ホームページの運営・更新

2018年度も引き続きコンテンツの整備と発信内容の精査、積極的な情報発信に力を入れていく。

## 2017（平成29）年度

所 長	平 正人			
研究部主任	山川 智子			
研修部主任	加藤 純一			
研 究 員	今田 晃一	太田 和敬	手嶋 將博	
	宮田 浩二			
事 務	紀井 佳奈子			
客員研究員	青木 大輔	浅川 有紗	綾 牧子	
	市河 大	加藤 紫識	川北 雅冬	
	栗原 保	阪本 陽子	清水 香保里	
	清水 祥平	矢作 由美子		

## 2017（平成29）年度

所 長	平 正人			
研究部主任	山川 智子			
研修部主任	手嶋 將博			
事 務	紀井 佳奈子			
客員研究員	青木 大輔	綾 牧子	加藤 紫識	
（予定）	加藤 純一	栗原 保	阪本 陽子	
	清水 香保里	矢作 由美子		

教育研究所年報 第 27 号

---

発行日 2018 (平成30) 年 5 月 6 日  
発行者 文教大学教育研究所  
〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島 3337  
電話 048-974-8811  
印刷 有限会社 カワカミ印刷  
電話 048-976-0007

---